

緒方惟準伝

緒方家の人々とその周辺

中山 沃 著

2011年11月刊行予定



▶ A 5判・1000頁／定価15,750円 (5%税込) ISBN978-4-7842-1563-8

洪庵の嫡子でポンペ、ボードインらに学んだ惟準は、大阪大学医学部・軍医学校の前身創設、大阪での医療基盤確立など西洋医学の導入に貢献し、一方で私立病院の先駆け・緒方病院を創設するなど、維新後の我が国の医学界を各方面で牽引した。本書は、その自叙伝「緒方惟準先生一夕話」を軸として、著者が永年にわたって博搜した資料とともにその生涯と多彩な交遊を詳述した大著。

〔内容目次〕

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 惟準の生誕と幼少期 2 加賀大聖寺および越前大野での修業 3 第一次長崎遊学時代と父洪庵の死 4 洪哉の長崎への再遊 5 惟準のオランダ留学 6 幕府崩壊による惟準の帰国 7 朝廷への出仕、典薬寮医師に任命 8 浪華（大坂）仮病院の設立とボードイン 9 大村益次郎の遭難とボードイン・惟準らの治療 10 大阪軍事病院の創設と大阪府病院のその後 11 東京在勤時代 12 惟準の西南戦争従軍 13 再び東京勤務（陸軍本病院・文部省御用掛兼勤） 14 大阪鎮台病院長時代 15 医事会同社の設立と『刀圭雑誌』の発刊 16 東京適塾における門弟育成 17 陸軍軍医監兼薬剤監に昇任 18 『日本薬局方』編纂事業と母八重の死 19 陸軍軍医学舎長兼近衛軍医長に就任 20 近衛歩兵隊への麦飯給与と脚気予防 21 海水浴奨励と大磯海水浴場賞讃 | <ul style="list-style-type: none"> 22 日本赤十字社および東京慈恵医院の運営に参与 23 惟準の陸軍退官とその真相 24 陸軍内部の脚気問題と惟準 25 私立緒方病院の創設 26 緒方病院医事研究会の発足と会誌の発刊 27 貧民病院設立の企図と挫折 28 大阪慈恵病院の創設 29 『一夕話』終了 30 緒方一族および緒方病院の動向 31 緒方洪庵の贈位奉告祭と祝賀会 32 惟準のキリスト教入信と臨終 33 惟準の剖検および葬儀 34 惟準ならびに緒方一族の墓碑 35 惟準死後の緒方病院と緒方一族 36 惟準の家族と緒方一族 37 緒方惟準の周辺の人々 38 著書・翻訳書・講義録写本・校閲本・論文・墓碑銘など ▼資料編（関係書簡など21篇収録） ▼緒方惟準および関係年表 ▼参考文献一覧／図版一覧 ▼索引（人名／事項） |
|--|---|

なかやま・そくぐ…大正14年(1925),新潟市生まれ。昭和24年(1949)新潟医科大学卒業。岡山大学医学部教授。医学博士。退官後、同大
学名誉教授。日本医史学会評議員、適塾記念会理事(大阪大学)、日本生理学会特別会員。主著に『備前の名医難波波
節』(御津町, 1971年)『岡山の医学』(日本文教出版, 1971年)ほか。

思文閣出版 〒605-0089 京都市東山区元町355 【2011年6月27日より左記に移転】 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	緒方惟準伝	本体15,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1563-8	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				書店番線印

近代医療のあけぼの 幕末・明治の医事制度

青柳精一著

遣外使節団の病院視察から、ドイツ医学の導入および医学校の創設、看護師・女医の誕生、医師法の制定と、よりよい医療を求めた先達のあゆみをたどる。長年医療ジャーナリズムに従事してきた著者が、幕末・明治の医事制度と社会背景について膨大な史料をもとに考証する。

▶A5判・576頁／定価4,935円

ISBN978-4-7842-1583-6

京都療病院お雇い医師シヨイベ 滞日書簡から

森本武利編著／酒井謙一訳

明治5年に京都療病院へ招かれたドイツ医師ハインリッヒ・ポート・シヨイベが滞日中に母へ送った書簡のコピーを、シヨイベの遺族から得た編著者がその翻訳を通して、シヨイベの生涯をはじめ、ほかのお雇い外国人達との交流や居留地での生活から明治初期の京都の風俗にいたるまでを、生き生きとよみがえらせる。

▶A5判・346頁／定価7,350円

ISBN978-4-7842-1581-2

東大医学部初代総理池田謙齋〔全2冊〕

池田文書研究会編

池田文書の研究

池田謙齋宛の約4,000通の文書類を翻刻。内容は、東大医学部の前身である幕府医学所関係文書およびその関係者からの書簡、ならびに池田謙齋宛の書簡などである。本書は、東京大学中樞部・陸軍軍医部・宮内省侍医として関係のあった各官家、同僚侍医、また患者としての華族や高級官僚などによる謙齋宛書簡を上・下2分冊で収録。

▶A5判・総764頁／揃定価15,330円

医療福祉の祖 長与専齋

外山幹夫著

長与専齋は江戸時代を通じて長崎・大坂で学び、長崎医学校(長崎大学医学部の前身)の初代校長となった人物。日本近代の医療・衛生・福祉の確立者ともいべき長与の生涯に焦点をあて、明治新政府の政策のなかで近代医療福祉制度がどのように整備されていったのか、専齋の果たした功績に即して紹介した医療の世界における“明治維新”。

▶46判・200頁／定価2,100円

ISBN4-7842-1107-1

※ベルツの生涯 近代医学導入の父

安井広著

日本の近代医学発展の基礎を築いた一人であるベルツの生涯をその業績と足跡からたどる著者ライフワークの遺著。

【内容】明治初期の東京医学校／来日以前の経歴と日本における生活／内科学著書から／栄養論／温泉医学／中央衛生会／ドイツ東洋文化研究協会／人類学／在日中の日記／ドイツにおける晩年の日記

▶A5判・450頁／定価12,600円

ISBN4-7842-0876-3

現代医療の原点を探る

前田久美江著

百年前の雑誌「医談」から

明治26年創刊、同41年に廃刊された私立奨進医学会の機関紙『医談』は、近代医療制度が確立していく過程における医学界を垣間見る貴重な史料であるが、その記事から、江戸から明治にかけての時代に、日本の医療事情や教育環境がどんな状況であったか、その中において医師がどう行動し、何を考えていたかを浮かび上がらせる。

▶46判・312頁／定価2,625円

ISBN4-7842-1193-4

近代医史学論考 阿知波五郎論文集 上

阿知波五郎著

戦後欧米の医史学研究的動向に触発され、比較医史学の視点からヨーロッパ医学受容の歴史を自らのテーマとし、初めてヨーロッパ医学の影響を実証的に体系化した氏の論稿のうち、新生日本医史学の息吹が感じとられる記念すべき「近代日本外科学の成立」と明治初期医学関係論文14篇を収める。

▶A5判・420頁／定価6,300円

ISBN4-7842-0448-2

医史学点描 阿知波五郎論文集 下

阿知波五郎著

「世界医学教育史」を祈念しつつ逝った著者の論稿から医学教育史関係15篇、京都・外科関係人物誌17篇、医学随想28篇を収めた。推理小説をも物したその筆のささと、海外の医史学書を精力的に猟歩した視野の広さ、さらに相次いで肉親の死を体験した氏のヒューマンで真摯なまなざしがうかがえる珠玉の論集。

▶A5判・420頁／定価7,350円

ISBN4-7842-0449-0

脚気の歴史 ビタミンの発見

山下政三著

ビタミン発見の背景には、脚気との闘いの歴史や、日本の漢方脚気医学の陰の貢献があり、エイクマン以後、鈴木梅太郎のオリザニン、フンクのビタミンなど、さまざまなビタミン発見の伝説も語られる。本書は、ビタミンB1欠乏症の専門家が、脚気の歴史をもとに全く新しい視点からビタミン発見の真相解明に迫る20世紀医療文化史。

▶A5判・540頁／定価14,700円

ISBN4-7842-0881-X

小児科学の史的変遷

深瀬泰巨著

昭和36(1961)年より小児科開業医として永く地域医療に携わってきた著者が、内外の医学書原著をひもとき、小児科学の誕生や発展の跡をたどった論考集。とりわけ小児感染症の歴史の変遷を通観し、近年大学生の間で再流行した麻疹など、忘れ去られつつある感染症を考究する。

▶A5判・604頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1526-3

明治の避病院 駒込病院医局日誌抄

磯貝元編

当時わが国の代表的な伝染病院であった駒込病院の勤務医が当直時に書き記した医局日誌全十一帖(明治32年~42年)から編者(元駒込病院副院長)による脚注を付して翻刻抄録。連日の如く運び込まれるベスト・腸チフス・赤痢患者の状況、医師や看護婦の取り組み、医局内の行事や人事など伝染病をとりまく生々しい実態が活写されている。

▶A5判・530頁／定価13,650円

ISBN4-7842-0998-0

日露戦争従軍記 軍医の陣中日記

溝上國義編

医家に遺された100年前の軍医のノート。明治37(1904)年から翌年までの陣中日誌には、軍医から見た日露戦争の状況が克明に記されている。水・食料の確保と衛生面に追われ、転戦する野戦病院では外科治療以上に、疾病、特に脚気・赤痢対策に時間が割かれていたことなど、戦時下の様子が多くのスケッチとともに生々しく活写されている。

▶A5判・172頁／定価2,940円

ISBN4-7842-1211-6

緒方洪庵 幕末の医と教え

中田雅博著

第一線の新聞記者である著者が、洪庵関係の資料を精査、綿密な取材の下に産経新聞紙上に連載した『適塾再考』を全面改訂し、再構成した。激動の時代に「医は仁術」をすすんで実践し、適塾で弟子の教育に身を捧げた洪庵の軌跡を、平易な文章で詳細にたどる好著。適塾門下生の活躍にも光をあて、巻末に門下生のくわしい一覧表を収録する。

▶A5判・399頁／定価2,625円

ISBN978-4-7842-1482-2

緒方洪庵の蘭学

石田純郎編著

『解体新書』以後の、緒方洪庵に代表される日本の蘭医学者及び彼らが学んだ原典とその著者たちの集団履歴調査法的研究を通して、日本の医学の質を明かす。

【内容】緒方洪庵の蘭学／蘭学書の原著者たち／東アジアの西洋学／ヨーロッパ医療界における蘭学のモデルの位置付けについて

▶A5判・366頁／定価5,040円

ISBN4-7842-0751-1

洪庵・適塾の研究

梅溪昇著

洪庵と両親の画像、夫人八重の生涯、適塾解体修理、洪庵と福沢諭吉・大隈言道・古賀茶溪・萩原広道・戸塚静海などとの交流のほか新史料の紹介も織りませ、適塾研究の第一人者が洪庵と適塾をめぐる縦横にとりくんだ一書。口絵(カラー1頁・モノクロ7頁)と人名索引を併載。

▶A5判・540頁／定価12,600円

ISBN4-7842-0766-X

続 洪庵・適塾の研究

梅溪昇著

折りに触れて書き継がれてきた諸論稿と雑誌『適塾』に掲載された史料紹介などをまとめる。【内容】大阪近代医学の源流／適塾(緒方洪庵)と大阪／洪庵夫人八重の話／適塾生・奥州手士の南三陸について／中天游と緒方洪庵／藤野家文書・蘭学者関係書翰の紹介／緒方惟準・取二郎・銚次郎関係書翰等の紹介／緒方家旧蔵の四史料について 他

▶A5判・726頁／定価9,975円

ISBN978-4-7842-1388-7

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。